文献紹介

Panmixia 第 17 号特集「和名問題を考える」

昆虫分類学若手懇談会が発行する Panmixia（昆虫分類学若手懇談会会誌）の第 17 号において,「和名問題を考える」という特集を組ませていただいた．この特集は，本学会会員の皆様，および旧日本鞘翅学会和名検討委員会の方々に多大なる御協力をいただいた．ここにその内容を紹介し，御礼とさせていただきたい．

まず，昆虫分類学若手懇談会について簡単に説明する．1972 年 10 月 26 日に愛媛大学で開催された日本昆虫学会第 32 回大会時に昆虫分類学を志す若手の研究者により発足した会であり，分類学を廻る諸問題について自由かつ活発に議論を行なう場として作られた．毎年秋に行われる日本昆虫学会でシンポジウム（小集会）を開催し，現在の昆虫分類学周辺分野の諸問題を議論している．また, 年に一度「昆虫分類学若手懇談会ニュース」を発行し，シンポジウム内容や特集などをまとめた「Panmixia（昆虫分類学若手懇談会会報）」も数年に一度発行している（年会費は 1000 円）．

本特集は，2008 ～ 2009 年度に同会事務局を担当していた九州大学大学院比較社会文化研究院生物体系学教室が 2009 年に企画したものである．この当時，キイロネクイハムシとルリクワガタの和名改称に関する問題が盛んに議論されていたことを受けての企画である．ちょうど同じ時期に，旧日本鞘翅学会・日本昆虫学会関東支部合同大会において公開シンポジウム「昆虫の和名について考える」が開催され，特集企画と一部内容が重なり, 同シンポジウムで講演された 4 名（瀬能宏氏，苅部治紀氏，秋田勝己氏，藤田宏氏）のうち 2 名（瀬能氏，苅部氏），および司会進行を務められた野村周平氏に執筆依頼を行うこととなった．そのため，同シンポジウムを企画した旧日本鞘翅学会和名検討委員会の野村周平委員長と高桑正敏氏に，Panmixia で本特集を組むことの許可を求め，ご快諾をいただいた．以下に示した特集目次のように，最終的に瀬能氏を除く執筆者 4 氏が日本甲虫学会の会員となり，本学会との関連性の高い特集となった．

Panmixia（昆虫分類学若手懇談会会誌）第 17 号（2012 年 3 月発行）特集目次

・古くて新しい和名問題：これまでの流れ～イントロとして～　細谷忠嗣　p.1~10
・和名についての考え方　野村周平　p.11~18
・階層的和名体系の構築　鈴木邦雄　p.19~36
・魚類における標準和名の考え方と日本魚類学会の取り組み　瀬能　宏　p.37~44
・和名問題を考える　―どうやって解決すればよいのか？：日本トンボ学会における試行―　苅部治紀　p.45~49

本特集では，まず和名に関する考え方として，標準和名の安定性・継続性を重視して取り扱っていく考えとして野村周平氏に，そして，区別性を重視し和名も学名と同様に階層的に構築していく考えとして鈴木邦雄氏に，それぞれ執筆を依頼した．野村氏には，標準和名に基本的に求められることについて，および標準和名の安定性・継続性を重視して取り扱っていくという基本的な考え方について解説をいただいた．鈴木氏には，区別性を重視するという考え方，つまり和名も学名と同様に階層的秩序を持つように構築していくべきとの考え方に基づく和名の扱い方の理論的な面について整理していただいた．

次に，実際に混乱が生じた際の対応の事例として，苅部治紀氏にトンボにおける和名についての混乱が生じた実例と日本蜻蛉学会での実際の検討方法について紹介いただいた．また，瀬能宏氏に和名問題の検討について既に議論が進められ，検討委員会も設置されている魚類における標準和名の捉え方と委員会としての考え方および対応の仕方について，日本魚類学会標準和名検討委員会委員長の瀬能氏にご紹介いただいた．

また，特集担当の細谷がイントロとして，昆虫の和名に関する議論について明治時代からの流れを概説した．

昆虫の和名問題に御関心のある方は，ぜひ本特集をご参照されたい．本号の入手希望，および昆虫分類学若手懇談会への入会を希望される方は，細谷（thosoya@scs.kyushu-u.ac.jp）までご連絡をいただきたい．昆虫分類学若手懇談会会員には 1,000 円（送料込），非会員には 1,300 円（送料別，送料 200 円．ただし海外への送付は別途請求）で販売している．

（九州大学大学院比較社会文化研究院
細谷忠嗣）